

市役所に縄文PR看板が完成！

市教育委員会では、本市の縄文遺跡をPRするため、市役所庁舎に掲げる看板のキャッチコピーを市内の小中学校および木造高校から募集。345件の中から、瑞穂小6年生の片山奈保さんが応募した「世界にかがやけ縄文遺跡」が見事、最優秀賞に選ばれました。この日、完成した縦1.8m、横8.8mの看板がお披露目されました。

葛西教育長は「縄文遺跡を大いにPRするための取り組みの一つがこの看板。縄文のまちを目指す上で、役立つことでしょう」と話しました。

片山さんは「自分のキャッチコピーがこんなに大きな看板になって市役所に掲げられてすごい。世界遺産に登録された縄文遺跡を、たくさんの人に知ってもらいたい」と話しました。



10/15
市役所

(左から) 葛西教育長、片山さん、母の美代子さん

秋の火災予防運動を実施



10/17
しゃこちゃん
温泉前駐車場

一糸乱れぬ隊列で出動式に臨む消防団員

「お出かけは マスク戸締り 火の用心」を全国の防火標語とし、県下一斉で秋の火災予防運動が10月17日から23日まで展開されました。

この日は、市消防団(大淵則昭団長)による火災予防パレード出動式が開催され、消防団員をはじめ関係者約60人と消防車両24台が集結。今副市長が「今の時期は毎年火災が多くなるので、市民への防火意識の啓発を徹底していただきたい」と団員を激励。大淵団長から訓示を受けた団員は、一斉に消防車両に乗り込み、住民に火災予防を呼びかけるパレードに出発しました。

ストーブなど火を扱う機会が多い季節、火の用心を心がけましょう。

市消防本部では、秋の火災予防運動の一環として、防災に関する習字作品を募集。市内7つの小学校から178点の作品が寄せられ、その中から優秀作品30点が選ばれました。応募された作品は全て、運動期間中、イオンモールつがる柏で展示され、火災予防の啓発に役立てられました。

	1年生「あんぜん」		2年生「よぼう」	
金	伊藤 妃珠	柏	山田 いち花	柏
銀	葛西 紗瑛	穂波	増田 望真	柏
	小関 瑛斗	柏	佐々木 麗乃	車力
銅	對馬 唯月	向陽	田中 翠	柏
	松橋 来幸	車力	稲葉 日鴻	向陽
	3年生「火の用心」		4年生「安全行動」	
金	一戸 実衣菜	向陽	加藤 葵	稲垣
銀	平川 愛佑菜	柏	中村 優心	柏
	松橋 莉愛	車力	松橋 幸志	車力
銅	京谷 春陽	向陽	葛西 羽菜	向陽
	小枝 鈴実	車力	福士 凜咲	向陽
	5年生「救命救急」		6年生「初期消火」	
金	加藤 優莉愛	稲垣	佐々木 心乃花	向陽
銀	外崎 杏香	森田	秋田谷 帆香	向陽
	澤田 叶愛	稲垣	山谷 凜仁	向陽
銅	秋元 凜	稲垣	尾野 瑠依菜	車力
	會津 妃南乃	車力	工藤 煌大	車力



総合教育会議を開催

10/18
松の館



会議で質問する帯川圭太教育委員(右)

この会議は、市長と市教育委員会が十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図るために開催しています。会議では、小中学校学区の適正配置や学校における働き方改革と今後の部活動のあり方などについて意見が交わされました。

中学校の教員にとって部活動が大きな業務負担となっていて進まない働き方改革。国の方針により令和7年度までに、中学校の運動部・文化部ともに、休日の部活動から段階的に地域移行され、教員に代わって、競技指導能力と人材育成能力を備えた方が指導にあたります。

出席者たちは、地域移行を進める上で、適切な人材、活動場所、財源などの確保が課題との認識を共有しました。

児童・生徒たちが活躍を報告

10/21
市役所

森田中学校吹奏楽部が「第28回日本管楽合奏コンテスト予選審査会」(日本音楽教育文化振興会主催) 中学校S部門において、最優秀賞に輝き、全国大会の切符を手に入れました。この日、部員5人は市役所を訪れ、今副市長にその喜びと出場する全国大会への抱負を語りました。

部長で3年生の佐藤冴樹さんは「このメンバーで全国大会に出場できることを光栄に思っています。これまでの練習の成果を最大限出せるようにがんばります」と抱負を語りました。

今副市長は「全国大会では普段の実力を発揮し、楽しんで演奏してきてください。そうすれば、おのずと結果はついてくると思います」と激励しました。



2年連続で全国大会に出場する吹奏楽部の皆さん

10/25
市役所



元気いっぱいの選抜メンバーの皆さん

10月8・9日、平川市尾上野球場で開催された「第6回CBS少年軟式野球学童新人全国大会青森県予選会」に出場した「つがる市選抜」が準優勝し、東北ブロック大会への出場を決めました。この日、チームメンバーは市役所を訪れ、今副市長に出場する東北大会への抱負を語りました。

向陽小5年生の境皇雅キャプテンは「コロナ禍でも仲間と野球ができることに感謝し、東北大会では“つがる魂”で元気いっぱい、全力で戦ってきます」と抱負を語りました。

今副市長は「みんな仲が良く、楽しんで野球ができるチームのようなので、東北大会では試合を楽しんでください」と激励しました。

つがる市選抜は、出場した東北ブロック大会でBグループ1位になり、3月31日～4月2日に愛知県で開催される全国大会への切符を手に入れました。

10/27
市役所



高校進学後も競技を続け活躍を誓った2人

10月2日、京都府で開催された第19回全日本中学生女子相撲大会で、個人戦に出場した木造中3年生の長谷川心響さんが、3位の好成績を収めました。また、10月21～23日に愛媛県で開催された第53回U16陸上競技大会で、男子砲丸投(5kg)に出場した木造中3年生の稲葉樂斗君が、14m25の自己ベストで8位入賞を果たしました。この日、2人は市役所を訪れ、大会の結果や感想などを今副市長に報告しました。

長谷川さんは「3位の結果に満足しないで、がんばっていききたい」、稲葉君は「大きな大会で自分の投げができ、自己ベストを更新することができた。高校でもこの経験を生かして強くなりたい」とそれぞれ話しました。

今副市長は「監督や先生、家族の支えがあつての活躍。感謝の気持ちを忘れずにこれからもがんばってください」と今後の活躍を期待しました。

『向陽小150周年』『穂波小20周年』 節目を祝う

向陽小学校（木村修治校長）で、創立150周年記念式典が行われました。同小は、明治6年に慶応寺私塾「時習学舎」を「木造小学」と改称して設立。これまで約1万3千人が学び舎を巣立ちました。

木村校長は「学校は明治、大正、昭和、平成、令和と5つの時代を生き抜いてきました。つがる市立向陽小学校は6番目の名前。児童の皆さん、向陽の名にふさわしく、堂々と力強く未来を切り開いてください」と式辞を述べました。

倉光市長は「歴史と校風を継承しつつ、学校教育の更なる創造に向け発展していくことを願います」とあいさつを述べました。

式典では、歴代校長やPTA会長などに感謝状が贈られたほか、「おめでとう向陽小学校」と題した児童たちによるビデオメッセージも披露されました。


10/22
向陽小

全校児童による校歌斉唱

穂波小学校（千葉義幸校長）で、創立20周年記念式典が行われました。同小は、平成14年に出来島・越水・吹原・下福原・柴田・菊川の6つの小学校が統合して開校。これまで594人が学び舎を巣立ちました。


10/29
穂波小

自ら描いたゆるキャラを紹介する入賞者たち

創立20周年記念事業実行委員会の長谷川卓矢委員長が「これからも皆さんを支えてくれる方への思いやりと感謝の気持ちを忘れず、立派な歴史をつくってください」とあいさつ。

千葉校長は「今の子どもたちが、おじいさんおばあさんになっても、この穂波小が地域を明るく照らす光、地域の希望の象徴であってほしい」と謝辞を述べました。

式典では、創立20周年を記念して企画された「穂波小ゆるキャラグランプリ」で入賞した児童の作品が紹介されたほか、昨年度の卒業生が残してくれたお祝いメッセージや全校児童による元気いっぱい呼び掛けなども披露されました。

歩いて健康づくり

市スポーツ推進委員協議会(工藤敦子会長)は、県ノルディックウォーク連盟顧問の小田桐匡孝さんを講師に迎え、ノルディックウォーク教室を開催しました。約30人が参加し、基本的なポールの使い方を教わった後、同連盟指導員に付き添ってもらいながら、松の館の周辺2.4kmを歩きました。

初めて参加した佐々木信子さんは「普段は全然ウォーキングしないけど、ポールを使ったらすごく歩きやすくて楽しかった」と感想を話しました。

小田桐さんは「ポールの先端のゴムを外せば、冬でも使えるので、運動不足を解消するためにも、時間を見つけてやるのが大事」と話しました。


10/23
松の館周辺

指導員からアドバイスしてもらいながら歩く参加者

風車の事故を想定し合同訓練


10/27
ウインドファーム
つがる

地上約100mの高さで訓練する救助隊員

特殊な構造の風力発電施設(風車)での事故を想定し、風車を運営する株式会社グリーンパワーインベストメントと市消防本部が実機を使用して合同訓練を実施しました。

訓練は、地上約100mの高さで作業員が負傷した想定で行われ、消防本部では初動体制や準備資機材を検証。救助隊は現場で救出方法や搬送経路を検証し、それを踏まえて社員たちと円滑に救助活動をするために意見交換しました。

訓練を終えた須藤農智救助隊長は「さまざまな災害に、高度な消防・救助技術をもって対応できるように備えておきたい。地域の安心安全を守るために、これからも訓練を継続し連携強化に努めたい」と話しました。

農業で関係人口の創出へ

11/2
松の館



アイデアを付せんに書いて出し合う参加者たち

11月1日、2日の両日、市は電気通信事業を手掛けるKDDIやJAつがるにしきた、弘前大学地域創生本部などと連携し、関係人口を創出する取り組みの一環として、ナガイモの掘り起こし作業体験とワークショップを行いました。

東京からKDDI社員13人が本市を訪れ、JAのナガイモ種子研究会（小寺優会長）が管理するほ場で、ムカゴを拾い集めたり、トラクターでナガイモを掘り起こしたりしました。

社員の安海輝和さんは「普段はマーケティングに関連する部署で働いている。地域が抱える課題をICTで解決する事業のいいヒントになった」と額ににじむ汗を拭きました。

2日間にわたる作業を終えた後、社員と市内の農家や飲食店経営者、弘前大学地域創生本部の准教授たちは、松の館に集まり、3班に分かれてトマトとネギの販路拡大をテーマに議論を深めました。参加者からは「四季折々の野菜を詰め合わせて定期便にして届けてはどうか」「観光ツアーに農作業体験を組み込んでどうか」などのアイデアが出されました。

津軽コンサート（竹鼻智嗣代表）がウクライナ支援チャリティコンサート「つがる縄文の詩」を開催し、集まった聴衆約250人は、津軽民謡とジャズの組み合わせなどに聞き入りました。

このコンサートは、南郷サマージャズフェスティバルのプロデューサー鳴海廣さんが総合プロデュース。本県ゆかりの奏者たちは、縄文を表現したオリジナルのジャズ楽曲や津軽弁を交えて歌ったナポリ民謡「オー・ソレ・ミーオ」、ジャズと融合した「ホーハイ節」などを披露しました。

竹鼻代表は「まちのために貢献したい思いがあって、2年前、縄文遺跡の世界遺産登録への機運を盛り上げようと企画したが、コロナ禍のため延期。今回、ウクライナ支援コンサートとして開催できた。音楽で地域が活気づいてくれればうれしい」と話しました。

鳴海さんは「民謡は世界の音楽になる可能性を持っている。今日、ここで開催したことが、そのきっかけになる」と強く語りました。

津軽民謡を世界の音楽へ コンサート開催

11/3
松の館



唄と篠笛とジャズが巧に融合した民謡

移住体験ツアーを実施



11/4
森田地区

JA職員からりんごのもぎ取り方を教わる参加者

11月3日～5日、市主催の移住体験ツアーを実施。首都圏から移住に興味を持つ5人が参加し、市内を巡りながら、先輩移住者と意見交換したり、りんごの収穫作業をしたりするなど、本市への理解を深めました。

ツアー2日目。この日はあいにくの雨でしたが、森田町の七戸久嗣さんの園地でりんごの収穫を体験。山下朋子さんは、JA職員から、りんごをもぎ取るコツを教わると「力を入れなくても、簡単にもぎ取れた」と感動した様子で、雨が降る中にもかかわらず、夢中で作業を進めていました。

今回、首都圏から訪れた参加者たちは、コロナ禍で会社に出勤せずリモートで仕事する機会が増えたことから移住や2拠点生活を考えるようになったと口を揃えます。そういった人たちが増えていることに対し、宮田真梨子地域おこし協力隊員は「首都圏からつがる市に来て、リモートワークできるように環境を整えていきたい」と意気込みます。